

養殖衛生管理体制整備事業

増養殖環境課 黒原 健朗

1 目的

近年、食品の安全性に対する消費者の要求が高まっており、特に養殖水産物に関しては、現場で使用されている医薬品の使用状況や養魚用飼料の給餌状況、養殖漁場環境について関心が寄せられている。

本事業は、このような状況に適切に対処するため、養殖水産物の安全性を確保し、安全で安心な養殖魚の生産に寄与するため、魚病対策のみならず食品衛生や環境保全にも対応した養殖衛生管理体制の整備を推進することを目的とする。

2 内容

(1) 総合推進対策

1) 全国養殖衛生管理推進会議

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
2024年 3月8日	WEB会議	農林水産省消費・安全局、各地方農政局、水産庁、内閣府沖縄総合事務局、水産研究・教育機構水産技術研究所、日本水産資源保護協会、各都道府県魚病担当者	<ul style="list-style-type: none"> 水産防疫の実施状況 水産機構や都道府県水産試験場からの発表 養殖魚の迅速な診断体制に向けた対応について

2) 地域検討会

①瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
2023年 9月7-8日	愛媛県	三重県、和歌山県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、香川県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、水産研究・教育機構水産技術研究所、農林水産省、日本水産資源保護協会	<ul style="list-style-type: none"> 2022年8月～2023年7月までの各府県魚病発生状況の報告 症例報告、話題提供 農林水産省消費・安全局報告 総合討議 国への要望事項

②南中九州・西四国水族防疫会議及び地域魚類防疫対策合同検討会

開催日	開催場所	主な構成員	主な議題
2024年 1月22-23日	熊本県	鹿児島県、熊本県、大分県、宮崎県、高知県、愛媛県、農林水産省、水産研究・教育機構水産研究所、日本水産資源保護協会	<ul style="list-style-type: none"> 2023年4月～12月までの各県魚病発生状況の報告 話題提供、研究発表 総合討議

養殖衛生管理体制整備事業

(2) 養殖衛生管理指導

1) 医薬品適正使用指導

実施時期	実施場所	対象者(人数)	内 容
2023年4月- 2024年3月	水産試験場	魚病診断依頼業者(20)	水産用医薬品の適正使用法に関する説明・指導

2) 適正な養殖管理・ワクチン使用指導

① 県中央部における水産用ワクチンの使用指導実績

2023年度における水産用ワクチン使用指導書交付件数は23件で、投与尾数はマダイが299千尾、ブリが986千尾の総計1,285千尾であった(表1)。

表1 2023年度ワクチン使用指導実績

ワクチンの種類	用法	件数	尾数(千尾)
イリドワクチン	注射	5	259
βレンサ・イリドの混合ワクチン	注射	1	40
αレンサ(I、II)・ビブリオ・類結・イリドの混合ワクチン	注射	17	986
計		23	1,285

(3) 養殖衛生管理技術普及・啓発

1) 養殖衛生管理技術講習会

開催日	開催場所	対象者(人数)	内 容
2023年 5月30日	水産試験場	種苗生産関係者(1名) 養殖関係者(1名)	ワクチン接種技術に関する講習

(4) 養殖場の調査・監視

1) 医薬品残留検査

検査方法	実施時期	検体採取場所	対象魚種	対象医薬品	検査数	陽性数
簡易法	2024年3月	野見湾	カンパチ出荷魚	抗生物質	10	0

(5) 魚病対策

1) 魚病監視対策

野見湾において白点虫の寄生状況調査を実施した(表2)。2023年度における検査尾数は40尾で、陽性率は前年度(2022年度:27%)を上回る38%であった。養殖カンパチにおいて被害が発生し、12月に入っても陽性個体が確認されるなど、例年よりも発生期間が長かった。

表2 白点虫寄生状況調査結果

魚種	検査結果	9月	10月	11月	12月	計
マダイ	検査尾数	1	8	8	2	19
	陽性尾数	0	1	2	0	3
カンパチ	検査尾数	1	10	8	2	21
	陽性尾数	0	5	5	2	12
計	検査尾数	2	18	16	4	40
	陽性尾数	0	6	7	2	15
	陽性率(%)	0	33	44	50	38

2) 魚病検査

2023年度における魚病検査は74件であり、前年度(2022年度:61件)と比べて21%増加した(表3)。

表3 魚病検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
魚病検査件数	2	8	8	9	1	7	15	13	0	3	5	3	74	61

①カンパチ

2023年度におけるカンパチの診断結果を表4に示す。診断件数は49件であり、前年度(2022年度:33件)と比べて48%増加した。 α レンサ球菌症(Ⅱ型)、滑走細菌症、ノカルジア症、白点病などが発生した。本年度はノカルジア症の診断が19件と疾病名では最も多く、10~11月にかけて、白点病やエラムシ症との合併症により被害が増加した。

表4 カンパチの魚病診断結果

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
α レンサ球菌症(Ⅱ型)												1	1		
滑走細菌症			1										1		
ノカルジア症										3			3		
ノカルジア症・住血吸虫症				1									1		
ノカルジア症・エラムシ症									1		2		3		
ノカルジア症・エラムシ症・白点病									1				1		
ノカルジア症・エラムシ症・住血吸虫症												1	1		
ノカルジア症・ハダムシ症										1			1		
眼球炎				1	1		1						3		
眼球炎・白点病									1				1		
住血吸虫症					1					1			2		
住血吸虫症・エラムシ症					6							1	7		
白点病								1	5				6		
白点病・ノカルジア症								4	1				5		
白点病・エラムシ症								1					1		
白点病・ノカルジア症・エラムシ症								4					4		
エラムシ症・ α レンサ球菌症(Ⅱ型)			1										1		
スレ				1					1				2		
スレ・エラムシ症										1			1		
不明				1		1				2			4		
計			1	1	4	8	1	3	15	11	0	3	2	0	49

養殖衛生管理体制整備事業

②マダイ

2023年度におけるマダイの診断結果を表5に示す。診断件数は7件であり、前年度（2022年度：13件）より減少した。前年度に2件あったエドワジエラ症や、イリドウイルス病の診断はいずれも0件であった。3月に、出荷サイズにおいてRT-PCR法によりウイルス性出血性敗血症が確認されたため、PCR産物のシーケンスを実施したところ、IVa型との高い相同性が確認された。

表5 マダイの魚病診断結果

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
滑走細菌症	1										1		2
ウイルス性出血性敗血症												1	1
生理障害・ロンギコラム											1	1	2
生理障害・ロンギコラム・緑肝症												1	1
不明											1		1
計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7

③ブリ

2023年度におけるブリの診断結果を表6に示す。検査件数は14件であり、前年度（2022年度：6件）より大幅に増加した。滑走細菌症、 α レンサ球菌症（II型）、ビブリオ病が発生した。

表6 ブリの魚病診断結果

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
滑走細菌症		1											1
α レンサ球菌症（II型）								1					1
ビブリオ病		2											2
ビブリオ病・エラムシ症			2										2
オヨギイソギンチャクによる刺症						1							1
不明		3	1	1		1		1					7
計	0	6	3	1	0	2	0	2	0	0	0	0	14

④その他の魚種の魚病検査結果

2023年度におけるその他の魚種の診断結果を表7に示す。シマアジとサツキマスでそれぞれ2件の診断があった。

表7 その他の魚種の魚病検査結果

魚種	疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
シマアジ	不明						2							2
サツキマス	滑走細菌症			1	1									2
計		0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4

3) 健康診断

健康診断結果を表8に示す。カンパチ、マダイ、ブリで計4件の依頼があり、いずれも病原体は確認されなかった。

表8 健康診断結果

魚種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カンパチ							1						1
マダイ										1			1
ブリ										1		1	2
計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	4